

令和7年度前期 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時 2025年9月5日（金） 14:00～16:00
 2. 会 場 米山キャンパス Y306
 3. 出席者 三上委員長、藤巻副委員長、柄沢委員、木田委員、鈴木委員、
中野委員、新飯田委員、淡路学務課長・社会連携推進部長、宮本学務課員
欠席者 黒田委員、原田委員、山田委員
 4. 会次第
 - 1) 開会の挨拶 三上委員長
 - 2) 出席者挨拶（近況ご紹介）

今年度から2名（藤巻副委員長、鈴木委員）委員の入れ替わりがあったため全員自己紹介と近況報告をおこなった
 - 3) 前回議事録の確認

三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた
 - 4) 情報学部について
 - (1) 令和6年度の募集状況・入学者選抜について

事務局淡路より、資料6に基づき状況報告がされた

入学者の状況は令和2～4年までは定員充足したが、令和5・6年は定員の6割ほどであった。令和7年は64名入学で8割と持ち直した。

資料5より、今年度留学生は3名。全員が中国出身。
- 中野委員：

試験区分をみると学校推薦指定校型から多く入学しているがどれくらいの指定校の枠があるか？
 - 柄沢委員：

指定校は県内99で125名、県外131で137名。毎年見直ししており、過去に数字があるところを優先している
 - 新井田委員：

昨年まで6割、今年は8割と入学者が増えているが、要因は何か？
 - 三上委員長：

まずはオープンキャンパスでしっかり動員する。オープンキャンパスでの決定率を上げるために参加者に楽しんでもいただくことに注力した
 - 柄沢委員：

オープンキャンパスではいろいろなコトに興味をもってもらえるように工夫した。特に体験授業等は学生スタッフに説明してもらうことで参加者に身近に感じてもらうようにした。また業界の人をゲストに迎え、業界の動向を知ってもらうよう企画。先日は女性のホワイトハッカーをゲストに迎えた。

●新井田委員：

オープンキャンパスでは親しみをもってもらうようにするのは効果的

●木田委員：

留学生 3 名は少ないように思うが増やしていきたいと考えているか？

●三上委員長：

アニメマンガ学部は 20 名以上、事業創造学部は情報学部とほぼ同数の留学生がいる。ミャンマーやネパールからの留学生を期待している

(2) 令和 7 年度の在籍状況について

事務局淡路より、資料 6 に基づき報告。

在籍状況について一番力を入れたのが退学状況。昨年年間 18 名の退学者を輩出 (7.72%)。一般的な大学の退学率は 2～3 %。特徴的なのは 1 年生の退学率の低さ。要因としては 1 年生に基礎ゼミを入れたことで減少。教員 1 名に学生 4～5 名を配属し、面談等をおこなった。

●中野委員：

学生からアンケート（勉強が不安、コミュニケーションがとれない等）はどのようにしているか？

●三上委員長：

毎週出席状況を確認し、月に 1 度教員みんなで確認し学生情報を共有している

●柄沢委員：

資料 12 にあるように PROG（学修成果の可視化ツール）の活用も始めた

(3) 令和 7 年度の臨地実務実習について

事務局淡路より、資料 7 に基づき報告。

臨地実務実習 I（210 時間）8 週間、II（450 時間）16 週を学外企業にて対面で実習

今年度注目されるのが、臨地実務実習 I でインド工科大学マドラス校 (IITM) での実習。学生 2 名を IITM の教授のプロジェクトに参加させるもの。

●藤巻副委員長：

保護者からは心配の声が多かったが学生たちはコロナの影響で海外に行くことも制限があったため、2 名募集のところ 5 名の申込みがあった

●中野委員：

インドの滞在費、旅費等はどうなっているのか？

●淡路：

航空券と海外保険は大学 3/4 負担、1/4 本人が負担。宿泊先はインドの大学で宿舍を提供してくれる。食費は本人負担。ワクチン接種等もあるがトータルで一人 10 万円いかない負担となる予定

●中野委員：

オープンキャンパスで臨地実習は参加者にどういう風にアピールしているのか？

●三上委員長：

実際に臨地実習に行った学生がオープンキャンパスで自分の経験を説明している

●中野委員：

経験している学生からの声は効果的です

(4) 令和7年度の就職状況について

資料8に基づき事務局淡路より報告

特徴として、上場企業への就職が増えていること。なお未決定者は残り8名。

資料には臨地実習先と実際にその企業に実習に行ったのかを記載した。

実習生での合格は7割、企業も今後それを期待しているためますます増えてくると考えられる

●三上委員長：

卒業生も3年目になりそれぞれ企業に認めてもらえるようになってきた。

実際に自分が実習した実習先で落ちたのは1名のみでほぼ自分の実習先で内定がでている

●淡路：

学校推薦枠があるのはミロク情報サービスとNTT-MEの2社

●三上委員長：

内定職種は1期生は95%エンジニア職。8~9割は技術職

(5) 令和8年度に向けたカリキュラム改定について

(6) 新たなコースの設置について

(7) 文系コース設置による必修・選択の見直しについて

(8) 展開科目の見直しについて

資料10に基づき事務局淡路より報告

現在4つのコース（AI・データサイエンティスト、IOT・ロボティクスエンジニア、クラウドエンジニア、サイバーセキュリティ）があり、次年度から2コース（ゲーム、デジタル・ビジネス）新設

資料9に基づき事務局淡路より報告

新コース新設でのカリキュラム改定は、1つ目ゲームを作るためのエンジンとゲームとしてのコンテンツをまとめる、2つ目ゲームコースについてはアニメマンガ学部と共同授業（3DCG、ゲーム制作）となり、古町キャンパスにて学ぶ、3つ目デジタル・ビジネスコースについてはマーケティング、商品開発を厚くする。

またデジタル・ビジネスコースについては、今まで必修だった数学とプログラミングの授業を一部選択にする

●中野委員：

デジタル・ビジネスコースは文系の人をターゲットにしているのか？

●淡路：

そのような狙いももちろんあります

●新井田委員：

コース認定はどうなっているか？

●淡路：

コースの上限はないが、専門職大学として1クラス40名としている。コース認定は卒業式で認定証を発行。1つのコースだけでなくMAX3つのコースが取得可能

●三上委員長：

プログラミング1・Ⅱはどう変わった？

●淡路：

プログラミングⅠ・Ⅱは1年生で必修科目だったが、Ⅰは1年生で必修、Ⅱは2年生で選択となった。本当にプログラミングを学びたい人が選択する

●淡路：

コースは今までクラウドエンジニアコースが一番多かったが、今はAI・データサイエンティストコースが人気がある

●淡路：

デジタル・ビジネスコースの設置のため、展開科目の見直しをおこなった。次年度紫竹山キャンパスに移転になるので事業創造学部との科目見直し（合同授業等）をおこなった

●柄沢委員：

クラウドの重要性を高校生にみせるにはどうすればいいか？

●新井田委員：

写真をみせるなどイメージできるよう工夫してみれば

(9) 各ポリシーの適合について

資料11に基づき淡路より説明

2コースが新設されたがディプロマポリシーは従来通りということで問題ない。(ゲームに関する文言が入っていても矛盾が生じないため)

なお選択科目が旧カリ98→136に増えているが、担当するのは新任教員のため従来の教員に負担はない

※次回（第2回）協議会 2026年3月3日（火）14:00～16:00 米山キャンパス 予定

以上